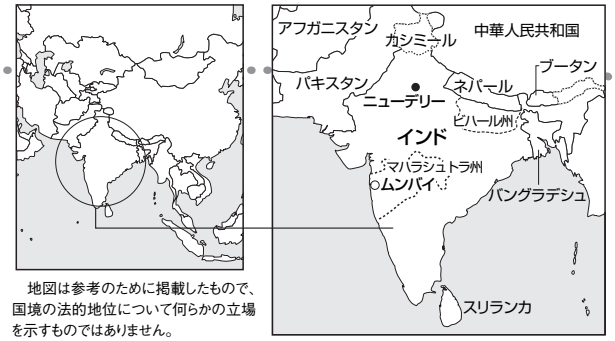
ユニセフ子ども物語
地球に生きる子どものくらし

India

インド



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

孤児となった女の子が見つけた大きな希望

ラニは、インドのマハラシュトラ州の大都市ムンバイ出身の女の子。彼女は、自分が何歳か知りません。彼女が現在、生活をしている施設「子どもたちの家」のスタッフは、9歳か10歳くらいとみています。ラニは幼い頃、ムンバイで両親と兄と一緒に暮らしていました。ところが、父親が母親に暴力を振るうようになったため、母親は幼いラニと兄を連れて家から逃げ出しました。

ある日、親子がムンバイの駅にいたところ、一人の男が母親に近づいて来て、食べ物を手に入れられる場所を兄に教えてくれると言うのです。子どもたちに食べ物を十分に与えられていなかった母親は、兄にその場所を見てくるように言い、兄はその男についていきました。母親とラニはその場で兄の帰りを待っていましたが、いくら待っても兄は戻っては来ませんでした。おそらくラニの兄は男に誘拐されてしまったのです。その後、ラニと母親は二度と兄に会うことはできませんでした。

母親は、ムンバイで生活していくことが難しいと感じ、ラニを連れてムンバイを出て、インド北東部に位置するビハール州に移り住みました。しかし、ビハール州での厳しい生活環境の中、母親は亡くなってしまいました。頼る身寄りもなく1人取り残されてしまったラニは駅に住みながら働く「プラットホーム・チャイルド」として生活せざるをえなくなりました。そんな中、NGOのボランティアによって駅で発見され、保護されたラニは、同じように身寄りがない子どもや事情があって家族と一緒に住むことができない子どもたちが共に生活をする施設「子どもたちの家」で暮らすことになりました。

「子どもたちの家」でラニが一番好きなことは、勉強をすること。ボランティアの人たちが「子どもたちの家」を定期的に訪れ、勉強を教えてくれます。これからは、「子どもたちの家」から学校に通って他の生徒たちと一緒に授業を受けられることになりました。ラニは今から学校に通って勉強ができるようになることをとても楽しみにしています。

<文・構成：(財) 日本ユニセフ協会>

物語の国
インド

インドは、IT産業などの躍進から近年目覚しい経済成長を遂げていますが、その一方で1日1ドル未満で暮らす人の割合が全人口の34%を占めており、未だに多くの人々が貧困生活を余儀なくされています。

南アジアで女子教育を推進するためにユニセフが作成したアニメキャラクターの「ミーナ」。
現在、インドでは女子教育だけでなく、栄養、保健、衛生、ジェンダー差別の撤廃など様々なテーマについての物語を教材として提供し、子どもたちが学び、考え、実行に移すための機会を与えています。

貧困生活の中で生きる子どもたちを守るために

インドの子どもたちが抱えている問題

インドの人口は11億5,100万人、そのうち18歳未満の子どもの数は4億4,500万人にのぼります。子どもたちは、学校や社会からの保護を受けられない、学校に通うことができない、安全な飲料水やトイレなどの衛生施設を利用できない、適切な医療ケアを受けられない、など様々な問題を抱えています。ユニセフは、インド政府と協力し、支援を必要としている多くの子どもたちに対して、保健、栄養、水と衛生、子どもの保護、教育、HIV/エイズなどの分野で支援活動を進めています。

インドの状況

（よりくわしい統計は『世界子供白書2008』をご覧ください）

項目	インド	日本
18 歳未満の子どもの数（2006 年、1,000 人）	445361	21393
1 人あたりの国民総所得（2006 年、米ドル）	820	38410
5 歳未満児死亡率　（2006 年、出生 1,000 人あたり）	76	4
初等教育純出席率（2000-2006、%）	男 84　女 85	データなし
低出生体重児出生率（1999-2006、%）	30	8

出典：『世界子供白書 2008』

家族から保護を受けられない子どもたちのために

物語に出てくる、ラニが暮らす施設「子どもたちの家」は、孤児、親に捨てられた子ども、親がHIV/エイズに感染している子ども、家庭内暴力の被害を受けた子どもたちのための保護施設です。保護が必要とされる子どもが発見されると、ビハール州政府の管轄下である子どもの福祉委員会が保護し、一時的な保護施設で子どもを預かります。その間、子どもの家族や親戚の捜索を行い、家族や親戚との同居が難しいと判断された場合は、「子どもたちの家」で暮らすことになります。子どもたちに適切な保護や環境が与えられるように、州政府と協力をしながら、ユニセフは支援活動を行っています。

©日本ユニセフ協会
小学校で授業を受ける女の子たち

学校に通えない女の子たちに教育の機会を!

ラニのように、就学年齢に達しているにも関わらず、様々な事情によって学校に通ったことがない子どもたちがいます。インドでは、男子に比べて女子の就学率が低いため、女子も男子も同じように学校に通い卒業することができるように、ユニセフは女子教育に力を入れています。たとえば、貧困家庭に育ち、家族や地域の女子教育への理解が不足しているため、これまで教育を受けたことがない11歳から15歳の女の子を対象とした寄宿学校をユニセフは支援しています。

©日本ユニセフ協会
寄宿学校

寄宿学校では、9カ月の間、家族と離れて集団生活を送りながら、集中的に勉強をすることで、自分たちの村に戻ってからも地元の学校に通い勉強を続けられるように準備をします。女の子たちは、算数や国語などの授業科目だけでなく、これまで女の子たちが身につけることができなかった、手を石鹸で洗う、歯を磨くなどの衛生習慣や目上の人と礼儀正しく話すマナー、困ったことがあれば警察に行って助けを求めるなど、自分たちの生活環境を改善していく上で必要な知識や習慣についても同時に学んでいくのです。そして、女の子たちは村に帰った後も、村の大人や子どもたちに女の子が教育を受けることの大切さを伝えるという重要な役割を担っています。

©日本ユニセフ協会
寄宿学校の女の子たち